

第26回学会認定・自己血輸血看護師認定試験 受験申請の案内と重要な注意

2020年12月22日

学会認定・自己血輸血医師看護師制度
協議会会長 脇本信博

1. 第26回認定試験の骨子

- 新型コロナウイルス感染症拡大のため、**オンライン試験（Zoomを使用）**で行う。
- 認定試験
合同講義：2021年3月19日(金)～3月20日(土)、筆記試験：3月21日(日)
- 申請期間：2020年12月25日(金)正午～2021年2月10日(水)23時59分
- 受験申請者が6名以下の場合には試験中止の上、受験申請費用（1万円、他の資格保有者は5,000円）は受験者に返還する。
- PCについて
1) 原則として、個人のPCを使用すること（職場の個人PCや家族のPCも可）
2) 職場の共用PCは推奨しないが、Zoom接続テストでOKの場合は可とする。
- 同一施設から多人数受験の場合も、合同講義・筆記試験の際に1人の受験者が1つのPCを使用すること（複数の受験者が1つのPCを使用することは認めない）。

＜補足＞

旅費・宿泊費は不要で、試験会場へ来る必要はない（自宅または職場で受験可能）。試験問題も通常よりも少なくなっており合格のチャンスが高くなっている。本案内を熟読し、奮って申請ください。

2. 申請前の手続き：1)～4)の順に手続きをすること

- 1) 申請者本人および自己血輸血担当医師（学会認定・自己血輸血責任医師を含む）の日本自己血輸血・周術期輸血学会（旧・日本自己血輸血学会）又は日本輸血・細胞治療学会の入会手続きを完了のこと
日本自己血輸血・周術期輸血学会入会案内は下記URLを参照のこと。
<http://www.jsat.jp/jsat_web/nyukaiannai_syousai.html>
- 2) 受験申請費用1万円の振込み
1万円を医師看護師制度協議会口座へ振り込む（臨床輸血看護師やアフエーシスナーズの認定取得者は5,000円）。
- 3) 受験申請：web申請および申請書類の郵送
 - web申請期間：2020年12月25日(金)正午～2021年2月10日(水)23時59分
受験申請webサイト<<http://jikkoketsu-nintei.jsat.jp/Apply/Nintei.aspx>>
webサイトは2020年12月25日(金)正午開設（それまではアクセスできない）
 - 申請書類送付：2021年2月12日(金)必着
申請書および空のレターパックライト（2つ折り）を日本郵便のレターパックライト（370円）で送付のこと。空のレターパックライトは2つ送付のこと。
空のレターパックライトに記載する事項

- ・お届け先：受験申請者の〒、住所、(施設名・部署名)、氏名、電話番号
- ・ご依頼主：記載不要
- ・品名：レターパックライト1：講義用テキスト、マークシート解答用紙
レターパックライト2：認定証
- ・ご依頼主様保管用シール：「第26回認定試験・受験番号・氏名」を記入すること。シールははがさないこと

レターパックプラス(520円)や書留および普通郵便での郵送は不可：

4) Zoomアプリのダウンロード

<<http://professionalmarketing.jp/how-to-zoom2>>からZoomアプリ(無料版)をダウンロードしておくこと

マイクとカメラが装着されているPCを用意のこと(パワーポイントでの講義を聴くためにスマホは不可)。

2021年1~2月中に受験者PCと事務局の間でZoom接続チェックをする(申請者と事務局の相談により日時を決定)。

3. 認定試験

1) スケジュール(日にちは確定、時間のみ予定、最終スケジュールは2月下旬に発表)

- ・2021年3月19日(金) 午前9時00分~19時00分：合同研修・面接
- ・2021年3月20日(土) 午前9時00分~16時半：合同研修
- ・2021年3月21日(日) 午前9時00分~12時：筆記試験

2) 合同研修・筆記試験会場

上記のZoom接続が可能な自宅、職場(施設)のいずれかを可とする。

但し、他人の同席は認めない。違反がある場合は不合格となる。

4. 認定試験受験資格

● 受験者個人の受験資格(必須条件)

- 1) 臨床経験：2年以上の看護師であること(臨床経験には准看護師の経験を含んでもよい) 准看護師の受験は認めない。
- 2) 自己血輸血業務経験：1年以上あること
- 3) 自己血輸血実施症例(貯血・回収・希釈・返血の実施と看護、計画立案、自己末梢血幹細胞採取、赤十字血液センターとしての指導を含む)：通算で30例以上あること(症例記録の提出は不要)。
- 4) 日本自己血輸血・周術期輸血学会(旧・日本自己血輸血学会)教育セミナーあるいは自己血輸血医師看護師制度協議会指定セミナーを受講し、受講証明書を1部以上保有していること 受講証明書を保有していない方は第34回日本自己血輸血・周術期輸血学会 学術総会時の教育セミナー受講すること。

2021年1月12日(火)から事前参加登録開始予定。詳細は下記の学術総会ホームページを参照すること。

http://www.jsat.jp/jsat_web/jsat34/index.html

5) 必須参考書を保有していること(11-13頁参照)

実践・輸血マニュアルは改訂中につき、今回の認定試験の必須参考書からは除外とする。

● 所属施設の必須条件

- 1) 日本自己血輸血学会 貯血式自己血輸血実施指針（2014）を順守していること。
- 2) 施設に日本自己血輸血・周術期輸血学会（旧・日本自己血輸血学会）あるいは日本輸血・細胞治療学会のいずれかの会員である自己血輸血担当医師がいること（学会認定・自己血輸血責任医師も可）

5. 受験申請に際してのメールに関する重要事項

● 使用可能なメールアドレスの環境

- 1) 確実にドメイン<oo@jsat.jp>からのメールを受信できること
- 2) 添付ファイルを印刷できる環境があること

● 使用可能なメールアドレス

- 1) 個人の PC メールアドレス（職場の個人メールや家族のメールも可）
- 2) Zoom 試験なので、今回のみ、上司や友人のメールも使用可とする。

● 使用を推奨しないメールアドレス

- 1) 職場の共用メールは推奨しないが、Zoom 接続の結果では認める場合もある。
- 2) 一斉送信の際、Yahoo メール、Gmail、Hotmail などの無料のアドレスおよび携帯メールは通信できない場合があるので推奨しないが禁止ではない。

● 使用禁止メールアドレス：Outlook メールは禁止とする。

● 一斉送信への対応

- 1) 申請されたメールアドレスに事務局から「申請受領メール」や「受験票」および「種々の連絡通信」を一斉送信する。

メーラーの初期設定で一斉送信を拒否する設定になっている場合には必ず解除すること。

● 受信確認メールについて

- 1) 申請後は事務局からの連絡はメールで行うので毎日メール受信をチェックすること。
- 2) 返信メールを事務局から求められる場合には、遅くても翌日までに、本人が返信メールを送信すること（関係者・代理人からの返信は認めない）。

6. 認定制度事務局・振込口座・受験費用の支払い

学会認定・自己血輸血医師看護師制度 協議会事務局

受験申請について質問がある場合には事務局へメールで連絡すること（電話は不可）。

郵送宛て先：〒114-0022 東京都北区王子本町1-24-7 メゾンドール102号

一般社団法人 日本自己血輸血・周術期輸血学会 事務局内

学会認定・自己血輸血医師看護師制度協議会 事務局 宛て

E-mail 宛て先：学会認定・自己血輸血医師看護師制度 協議会会長 脇本信博

受験申請前：info@jsat.jp 受験申請後：jikoquetsu-nintei@jsat.jp

認定登録後：info@jsat.jp

学会認定・自己血輸血医師看護師制度協議会（医師看護師協議会）口座

口座名：「医師看護師協議会 代表 脇本 信博」（イカンゴシキョウギカイ ワキモト ノブヒロ）

銀行名：三菱UFJ銀行 店名：王子（ウヅ）支店（店番 175）

口座種類：普通口座 口座番号：0106265

注意：日本自己血輸血・周術期輸血学会口座と違うので注意。

振込み時は申請者の氏名のみ記載すること。

施設名で振込みの際は申請者の後ろに施設名を記載する。

● 費用の支払いについて：

医師看護師協議会口座へ振込むこと。

振込手数料は申請者が負担。

領収書は発行しない。振込用紙控え（ご利用明細書）を代用すること。

*** 総受験費用（受験申請前，資格審査合格後，認定試験合格後の3回に分けて振り込むこと。受験申請時あるいは資格審査後に一括で振り込まないこと!!!）**

臨床輸血看護師やアフエレーシスナースの認定取得者以外の方：総額 4 万円

認定取得者：総額 3 万円

*** 受験申請費用：1 万円（web 申請前に納入!!!）**

臨床輸血看護師やアフエレーシスナースの認定取得者は 5,000 円を納入する。

その場合は認定証の写しを提出すること。

*** 合同研修（1 万 5 千円）・筆記試験受験費用（1 万円）：合計 2 万 5 千円
（資格審査合格の通知受領後に納入）**

臨床輸血看護師やアフエレーシスナースの認定取得者は合同研修費用として 1 万円，受験費用として 1 万円，合計 2 万円を納入すること。

*** 登録料：5 千円（認定試験合格の通知後に納入）**

● いったん振込んだ費用は原則として返還しない。

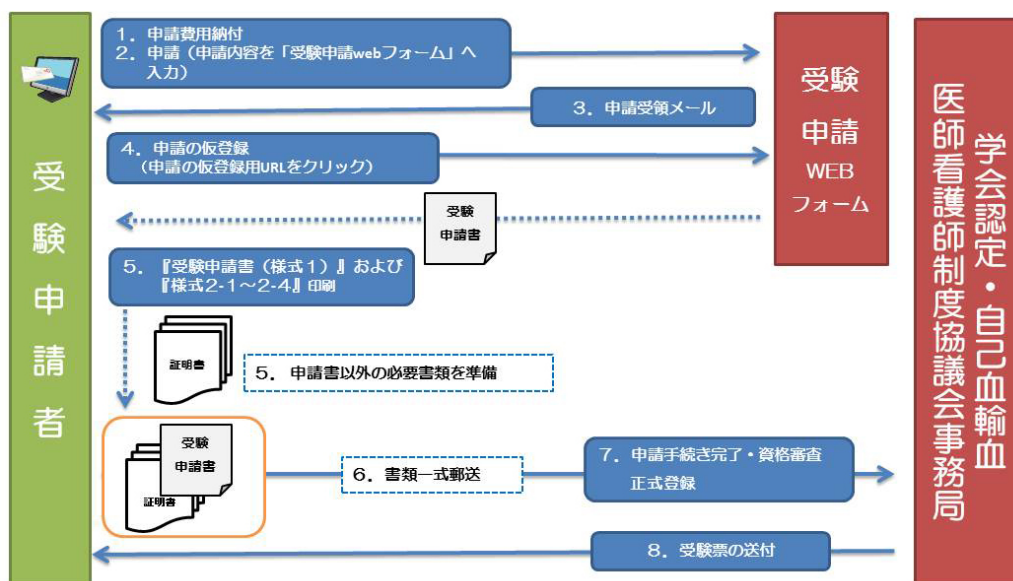
第 26 回認定試験受験申請者が 6 名以下の場合には返還する。

また，外傷・疾病・妊娠・分娩，自然災害などの正当な理由があり，協議会が認める場合は返還する。

● 資格審査あるいは筆記試験の不合格者は，次回受験の際に，新たに受験申請（申請費用振込み含む）から行う必要がある。

7. 認定試験の申請手順

- 「受験申請→資格審査→施設研修・合同研修・面接・筆記試験→登録」の順で行う。



(1~4 : web 申請, 5~8 : 書類の郵送)

1) 未入会者の学会入会と受験申請費用 (1万円) の振込み :

日本自己血輸血・周術期輸血学会 (旧・日本自己血輸血学会) あるいは日本輸血・細胞治療学会へ入会していない方は申請前に入会すること。受験申請費用は医師看護師協議会口座へ振込むこと。書類一式送付の際に振込票の控えも提出すること。

2) 仮申請

申請時のメールアドレスについては本状 3 頁の「5. 受験申請に際してのメールに関する重要事項」を参照すること。

受験申請 Web サイト

< <http://jikoketsu-nintei.jsat.jp/Apply/Nintei.aspx> >

注意 : 受験申請期間中以外はアクセスすることができません。

Web フォームは「日本自己血輸血・周術期輸血学会ホームページ」>「学会認定・自己血輸血医師看護師制度」>「学会認定・自己血輸血看護師試験について」にも掲載する。

学会ホームページ : http://www.jsat.jp/jsat_web/index.html

- 「受験申請 Web サイト」にアクセスし Step1 の画面に表示されている『入力ガイド』や『様式1・入力見本』を参照の上、申請内容を入力し、『申請内容を送信する』ボタンをクリックする。
送信後に「申請内容呼出・修正用パスワード」が画面上に表示されるので、事務局からの「申請受領メール」が届くまで パスワードは必ず保存 すること。
- 3) 事務局からの申請受領メールの送付
 - 仮申請時に入力したメールアドレスに事務局からすぐに (遅くとも 1 時間以内) 「申請受領メール」が送られる。
 - 申請後、即時 (遅くとも 1 時間以内) に「申請受領メール」が届かない場合は、メールア

ドレスの誤入力あるいは PC メールからの受信拒否が考えられる。

「申請受領メール」が届かない場合は「申請内容呼出・修正用パスワード」を使ってメールアドレスを確認し、<修正・印刷ボタン>から仮申請の修正すること。
新規申請ボタンは絶対に使用しないこと!!!

4) 申請仮登録

- 「申請受領メール」に「申請仮登録用の URL」が表示されているので、URL をクリックする。

5) 『受験申請書』印刷

- 「申請の仮登録用 URL」をクリックし申請仮登録完了の後、Step8 の画面表示に従い『入力済・受験申請書（様式 1）と様式 2-1～2-4』および『本人確認用送付物確認シート』をダウンロードし印刷する。
- 申請内容の修正および再印刷が必要な場合は、「受験申請 Web フォーム」に「申請内容呼出・修正用パスワード」でログインし登録修正または再印刷する。
- 「申請受領メール」を受信後に「申請の仮登録用 URL」をクリックしないで放置すると申請内容が破棄される。速やかに手続きすること。
- 「申請内容呼出・修正用パスワード」：申請内容を修正する場合に必要。大切に保管すること。

6) 書類一式の郵送（2021 年 2 月 12 日(金)必着）

- 『入力済・受験申請書（様式 1）』に 6 ヶ月以内の顔写真（横 3cm×縦 4cm）を貼付け、『様式 2-1～2-4』に必要事項を記入する。
- 『受験申請書（様式 1）』と『様式 2-1～2-4』および『教育セミナーや協議会指定セミナーの受講証明書の写し』、『看護師免許証の写し』、『受験申請費用 1 万円の振込票の写し（臨床輸血看護師またはアフェレーシスナース認定取得者は 5,000 円の振込票と認定証の写し）』、『本人確認用送付物確認シート』、『空のレターパックライト（2 つ折り）2 部』を協議会事務局（3 頁）へレターパックライト（370 円）で郵送する。
（レターパックプラス 520 円や書留および普通郵便は不可）

7) 資格審査と正式登録完了

- 受験申請に必要な書類一式が事務局へ到着し、事務局の資格審査後にはじめて申請手続き（正式登録）が完了となる。

8. 申請書類記載上の注意

1) 申請用紙（様式 1）

- 様式 1：申請時の 6 ヶ月以内の顔写真（横 3cm×縦 4cm）を貼付
- 住所：都道府県名から記入すること。
- 携帯電話：保有している場合には必ず記入する（緊急連絡時に必要）。
- メールアドレス：確実に受信でき、添付ファイルを印刷できる環境のメールアドレスを記載する（3 頁の「5. 受験申請に際してのメールに関する重要事項」参照）。
- 部署名：外来(科名)・病棟(科名)・輸血部・管理部門(職種・職位)などを記載する。
記載例：1) 看護部・〇〇病棟, 2) 看護部・〇〇外来, 3) 看護部・輸血部, 4) 輸

血部（病院雇用でなく輸血部雇用の場合）

- **職歴**：看護師免許取得後の職歴（ローテーション、転勤、同一病院内の職場変更等を含む）を記入する。

職歴が5か所以上の場合：4か所を超えるものは省略する。その場合でも、最初と最終（現在）の職歴は必須。

職歴が4か所の場合：すべての職歴を記載する。

職歴が3か所以内の場合：退職・休職・助産師学校や大学院などへの進学などがある場合にはそれも記載のこと。

休職・退職・進学は記載漏れが多い⇒要注意!!!

- **准看護師および看護助手の職歴**：

記載しないこと。

ただし、准看護師を含まないと臨床経験が2年未満の場合には、准看護師の職歴を追加記載する。

- **所属施設の年間自己血輸血実施症例数と申請者の通算の自己血輸血業務経験年数および通算の自己血輸血実施症例数**：

自己血採血計画の立案、自己血採血実施、採血時の看護、回収式や希釈式実施あるいは看護、自己血の返血実施、赤十字血液センターとして自己血採血の指導などを含む（実施記録の提出は不要）。

- **申請者の学会会員歴**：日本自己血輸血・周術期輸血学会（旧・日本自己血輸血学会）あるいは日本輸血・細胞治療学会への入会の有無を記載する。
入会年や会員番号は記載の必要ない。
- 様式1, 2-1,2,3, 2-4を訂正する場合は二重取消線を使用し訂正印を押すこと。

2) 様式 2-1,2,3：施設長（理事長または院長）、所属長（看護部長）、自己血輸血責任医師の推薦状

- 施設長（理事長または院長）・所属長（看護部長）・自己血輸血担当医師（あるいは学会認定・責任医師）の各々すべての推薦が必要。

所属長として師長は不可。

- 看護部長不在の場合はその職務代行者を推薦者とする。
- 看護部長が申請する場合は所属長として理事長または院長の推薦が必要。
- 理事長や院長が申請する場合は次席（副院長や事務長など）の方の推薦が必要。
- 自己血輸血担当医師（あるいは学会認定・責任医師）の日本自己血輸血・周術期輸血学会（旧・日本自己血輸血学会）あるいは日本輸血・細胞治療学会への入会の有無を記載する（入会年や会員番号は記載の必要なし）。

3) 様式 2-4 自己血輸血業務経験証明書

- 施設長（理事長または院長）または所属長（看護部長）あるいは自己血輸血担当医師（あるいは学会認定・責任医師）のいずれか1名による証明が必要。
- 証明に際して、貯血などの記録を提出する必要はない。
- 以前勤務していた施設で自己血輸血を行っていた場合には、業務経験証明書として、その施設の証明が必要。

4) 日本自己血輸血・周術期輸血学会（旧・日本自己血輸血学会）教育セミナーあるいは自己血輸血医師看護師制度協議会指定セミナー受講証明書の写し：

- 少なくとも1部必要
- 日本自己血輸血・周術期輸血学会（旧・日本自己血輸血学会）理事長印や自己血輸血看護師制度協議会会長印のない受講証明書は認められない。
合同輸血療法委員会や日本輸血・細胞治療学会支部例会の参加証明書は認めない。
- 受講証明書を保有していない方は第34回日本自己血輸血・周術期輸血学会 学術総会時の教育セミナー受講すること。2021年1月12日(火)から事前参加登録開始予定。詳細は下記の学術総会ホームページを参照すること。

http://www.jsat.jp/jsat_web/jsat34/index.html

その場合の受講証明書の郵送は後日でよい。

5) 看護師免許証のコピー

- 結婚・離婚などで改姓あるいは紛失などで裏面に記載がある場合は裏面のコピーも必要。

6) 准看護師許証のコピー

- 原則として提出する必要はありません。
- 准看護師の経験を含まないと臨床経験が2年に達しない場合のみ提出のこと。

7) 受験申請費用1万円振込票の写し

- 臨床輸血看護師またはアフレーシスナース認定取得者は5,000円の振込票を提出のこと。その場合は認定証の写しを提出する必要がある。

8) 提出方法（2021年2月12日(金)必着）

- 提出書類はすべてA4の大きさに統一すること。
A4よりも大きいものは縮小コピーし、小さいものは拡大コピーする。
- 提出書類
 - ① 様式1（原本）、様式2-1,2,3,4（原本）
 - ② 教育セミナーまたは自己血輸血医師看護師制度協議会指定セミナー受講証明書（コピー）
 - ③ 看護師免許証（コピー）
准看護師許証（コピー）←准看護師を含まないと臨床経験が2年未満の場合のみ
 - ④ 受験申請費用1万円振込票（コピー）を順に綴じて、左上をホチキスで留める。
- 『本人確認用送付物確認シート』は1部提出（確認シートはホチキスで綴じない）。
- 『空のレターパックライト（2つ折り）2部』
- 提出書類1式をクリアファイルに入れ、レターパックライト（370円）で郵送すること（レターパックプラス520円や書留および普通郵便は不可）。
- 提出書類一式の提出は1部でよい。

9. 資格審査と受験票の送付

1) 資格審査結果通知

- 資格審査結果は2月中旬以降に順次メールで送信する。
不備がある場合にはメールまたは電話で問い合わせする。
- 受験者数とZoom許容人数の関係から、資格審査に合格した場合でも、筆記試験の受験資格が与えられない場合もある。申請書類を受付けた後に資格審査を行い、審査合格の順に受験票を発行しますので、**可及的速やかに申請書類を郵送すること。**
- 受験資格が与えられなかった方に対しては、次回以降、優先的に筆記試験を受験できるものとする。その場合、新たな申請手続きを行う必要はない。
- 本人の都合で筆記試験を辞退する場合は、受験資格を失うものとする。原則として振り込んだ費用は返却しない。
ただし、外傷・疾病・妊娠・分娩、自然災害などの正当な理由があり、協議会が認める場合はその限りではない。

2) 受験票の送付

- 2021年2月中旬以降、メールで受験票・スケジュールを送信する。
2月22日(月)になっても受験票が届かない方は必ず<jikoketsu-nintei@jsat.jp>へメールで連絡すること。
- 受験票には顔写真を貼付け、合同研修・筆記試験会場に用意すること。
- 合同研修・筆記試験会場へは受験票のほかに**運転免許証やパスポートあるいはマイナンバーカードなど顔写真の付いた公的な証明書を持参すること。顔写真のないものは認めない。**
- 運転免許証やパスポートあるいは公的なカードのない方は**現在勤務先の施設の顔写真の付いた身分証明書も可**とする。

10. 合同研修

- テキストとマークシート解答用紙は受験者から郵送されたレターパックライトで前もって郵送する。
- 受講資格は資格審査合格者のみ。
- 資格審査試験受験者は合同研修に必ず参加すること。
参加しない者は筆記試験の受験を認めない。

11. 筆記試験

1) 試験実施要項

- 筆記試験：マークシート形式の一般問題と臨床問題で**カリキュラムの全範囲**から出題する。
小論文記述問題も出題する。

2) 合否判定と発表

- 合否の判定は筆記試験（60点以上）、面接、施設研修の結果を総合して判定する。
- 結果はメールおよび文書で通知する。
- 合格者には認定証を発行する（セミナー未受講で仮登録の者は受講後に発行）。
- 認定試験合格者は、原則として、日本自己血輸血・周術期輸血学会（旧・日本自己血輸血学会）ホームページに施設名を掲載する。

12. 認定証の授与

受験者から郵送されたレターパックライトで郵送する。

13. 学会認定・自己血輸血医師看護師制度の趣旨と目的

わが国では輸血部のない施設が多いため、輸血や自己血輸血について必ずしも十分な教育を受けているとはいえない看護師あるいは研修医が自己血採血を行うことが多いと考えられている。同種血輸血の安全性が劇的に向上してきた今、自己血輸血について教育を受けた**医師と看護師が共同**で採血時の細菌汚染や血管迷走神経反応などの危険性を回避し、適切な採血を行うことが重要である。保管に際しても**医師と看護師と臨床検査技師が共同**で実施することが必要である。

2008年10月に日本自己血輸血・周術期輸血学会（旧・日本自己血輸血学会）と日本輸血・細胞治療学会は日本赤十字社の協力を得て、学会認定・自己血輸血医師看護師制度協議会を設立した。そして、2009年3月に第1回認定試験を開始した。

- 学会認定・自己血輸血医師看護師制度の目的は適正で安全な自己血輸血を推進する看護師の育成であるが、認定取得後には、自己血輸血のみならず臨床（ベッドサイド）の輸血においても各施設において指導的な役割を果たすことが望まれる。

14. 自己血輸血担当医師

学会認定・自己血輸血医師看護師制度では看護師だけに責務をおわせるのではなく、自己血輸血担当医師の存在を必須としている。条件を満たした担当医師がいない場合には、看護師は受験申請できないので注意のこと。

● 自己血輸血看護師認定試験申請のための自己血輸血担当医師の必要条件：

以下の4条件をすべて満たすことが必要

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 日本自己血輸血・周術期輸血学会（旧・日本自己血輸血学会）または日本輸血・細胞治療学会の会員であること。● 自己血輸血の適応を決定すること。● 採血日の患者の全身状態チェックと自己血採血の可否を決定すること（自己血採血の可否の決定は自己血輸血担当医師が指導する医師が行ってもよい）。● 自己血輸血に関する事項（採血方法、エリスロポエチンの適応、合併症対策、保管管理など）を管理し、看護師を教育・指導すること。 |
|--|

備考：2014年（平成26年）4月以降に認定を取得した「学会認定・自己血輸血責任医師」は上記の条件を満たしているものとみなす。

15. カリキュラム

- 輸血療法の考え方と各科の輸血：輸血の考え方，内科の輸血，外科の輸血，細胞治療
- 血液製剤の種類，管理，供給：種類と使用目的，保管管理と払い出し
- 輸血の実際：
輸血に必要な器材と使用上のポイント，輸血手順・手技・患者ケア，輸血副作用と対応・予防策，輸血実施における看護上のポイント，輸血とリスクマネジメント

- **自己血輸血**
目的と適応，利点と欠点，貯血式自己血輸血に必要な器材，方法（消毒，穿刺，貯血，輸液，等），エリスロポエチンの使い方，自己血輸血副作用と対応（救急医薬品の使用を含む），自己血貯血における看護師の役割，クリニカルパスの有用性，自己血採血と看護師制度の法的側面
- **アフエレーシス**：種類，実際の方法，副作用とトラブル，看護師の役割
- **血液事業**：献血の仕組み，成分採血と副作用，医薬情報
- **輸血に関する倫理と法制度**
インフォームドコンセント，宗教と輸血，安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律，改正薬事法，被害救済制度

16. 指定参考書

認定試験受験者は以下の ~~5冊~~4冊の必須参考書を必ず認定試験前に入手し自宅学習しなければならない。実践・輸血マニュアルは改訂中なので，**今回の必須参考書からは除外とする。**

1) 必須参考書

著者名	書籍名	発行者	価格
脇本 信博 編・著	実践・輸血マニュアル —自己血輸血から輸血療法全般の理解を求めて—	医薬ジャーナル社	3,780円(特別価格) 2,500円(送料含む)
日本自己血輸血学会 (監修：脇本信博)	貯血式自己血輸血の概要と実際（改訂第3版）	日本自己血輸血学会	1,000円(送料含む)
日本赤十字社	「輸血療法の実施に関する指針」 令和2年3月一部改正	日本赤十字社	赤十字血液センターから無料で入手可能
日本赤十字社	「血液製剤の使用指針」 平成29年3月	日本赤十字社	赤十字血液センターから無料で入手可能
日本赤十字社	[輸血用血液製剤 取り扱いマニュアル 2019年12月改訂版]	日本赤十字社	赤十字血液センターから無料で入手可能

● 注意 1：

~~「実践・輸血マニュアル」と「貯血式自己血輸血の概要と実際」の購入方法~~

日本自己血輸血・周術期輸血学会ホームページの「書籍購入サイト」から購入ください（書店では販売していません）。

<http://www.jsat.jp/jsat_web/download/syosekikounyu_site.html>

~~ホームページから購入する場合、「実践・輸血マニュアル」（定価 3,780 円）は特別価格 2,500 円（送料含む）（銀行の振込手数料は各自負担）で購入できます。~~

「貯血式自己血輸血の概要と実際」は 1,000 円（送料含む）（銀行の振込手数料は各自負担）で購入できます。

● 注意 2：

「輸血療法の実施に関する指針」と「血液製剤の使用指針」および「輸血用血液製剤 取り扱いマニュアル」は赤十字血液センターから無料で入手可能です。

2) 参考とすべき文献

- 日本輸血・細胞治療学会誌：日本輸血・細胞治療学会ホームページの学会誌のサイトから閲覧可能
- 自己血輸血（日本自己血輸血・周術期輸血学会会誌）：日本自己血輸血・周術期輸血学会ホームページの会員サイトから閲覧可能

輸血副作用

雑誌名	巻・号	頁	著者名	論文名
日本輸血細胞治療学会誌	第53巻 第3号	374-382	藤井 康彦, 他	ABO型不適合輸血の発生原因による解析
日本輸血細胞治療学会誌	第54巻 第3号	359-371	高橋 雅彦, 他	輸血用血液の細菌汚染と敗血症
日本輸血細胞治療学会誌	第54巻 第3号	406-410	藤井 康彦, 他	重篤な急性輸血副作用に関する多施設共同研究

貯血式

雑誌名	巻・号	頁	著者名	論文名
自己血輸血	第15巻 第1号	1-4	内田 立身	自己血輸血と鉄
自己血輸血	第15巻 第2号	129-137	比留間 潔	同種血および自己血輸血における保存前白血球除去の意義
自己血輸血	第17巻 第1号	1-4	佐竹正 博	自己血の細菌汚染防止について
自己血輸血	第17巻 第2号	117-120	藤田 浩, 他	自己血採血と検査採血時の血管迷走神経反応 VVR の比較検討
自己血輸血	第18巻 第1号	114-132	脇本 信博	貯血式自己血輸血ガイドライン作成に向けての検討課題－わが国と欧米のガイドラインの比較検討から－
自己血輸血	第18巻 第2号	228-241	脇本 信博	自己血輸血に関する Q&A－第1報－
自己血輸血	第19巻 第2号	207-216	脇本 信博 面川 進	日本自己血輸血学会・貯血式自己血輸血実施基準（2007）作成に当って
自己血輸血	第20巻 第1号	10-34	佐川 公矯 面川 進 古川 良尚	自己血輸血の指針 改訂版（案）

回収式・希釈式

雑誌名	巻・号	頁	著者名	論文名
自己血輸血	第18巻 第2号	217-221	富士 武史	整形外科における回収式自己血輸血の現状と今後

自己血輸血	第 18 卷 第 2 号	222-227	小堀 正雄	初心者が実施するための「希釈式自己血輸血のガイドライン作成に向けての試み」
自己血輸血	第 19 卷 第 2 号	167-172	小堀 正雄	希釈式自己血輸血に何が課せられているのか
自己血輸血	第 20 卷 第 2 号	215-222	面川 進	希釈式及び回収式自己血輸血の現状と問題点について

その他

雑誌名	巻・号	頁	著者名	論文名
自己血輸血	第 19 卷 第 1 号	34-39	面川 進	献血状況 —特にドナーフェレシスについて—
自己血輸血	第 19 卷 第 2 号	149-152	平沼 高明	看護師の採血に関する法律的な問題点
自己血輸血	第 21 卷 第 2 号	124-133	脇本 信博	自己血輸血看護師制度設立に向けて